詳しい情報はWEBで！！「遠賀川河川事務所」のHP版の「流域だより」には、より詳細な情報と、たくさんの写真も掲載されています。
※検索画面において、遠賀川流域だより　ダウンロード　で検索してください。

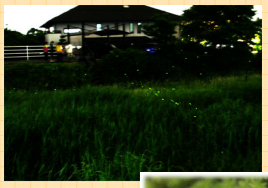
遠賀川流域　団体紹介

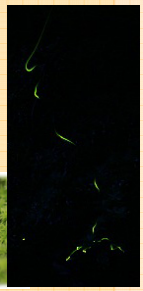
香月・黒川ほたるを守る会

～世界も注目！大都会に蛍が乱舞する光景～

新幹線や北九州都市高速道路の下を通り、住宅街を流れている黒川は遠賀川の支流です。この黒川では初夏が近づく頃になると数千匹ものゲンジホタルが川面を乱舞し、幻想的な光に包まれます。大都市には珍しいこの光景を守り続けているのが「香月・黒川ほたるを守る会」 のみなさんです。

会の結成は今から２０年ほど前、年々減少するホタルを前に「この癒しの光を私たちの代で消してはいけない」と町内会の有志数人が立ち上がり**ホタルの育成環境を守るための河川清掃**や**乱獲防止の呼びかけ**を始めました。その活動が「香月・黒川ほたるを守る会」を結成するキッカケとなりました。





～「香月・黒川ほたるを守る会」の主な活動内容～

①「ホタルの棲みやすい環境づくり」
ホタルやホタルのえさとなるカワニナが棲みやすい環境に復元するために石を並べ替えたり、年間を通しての清掃活動、草刈りを実施しています。

②「住民参加のほたる祭りの企画運営」
祭りは今年で18回目となり、地域の恒例イベントとなりました。毎年5月下旬の土・日曜日に開催され、最初は何もなかったこのイベントも、小学生の竹短冊披露、地元香月中学校の吹奏楽部のパレードなどたくさんのイベントが行われるまでになりました。

③「香月・黒川ほたる教室」
自然教育として毎年3月に開催。小学生たちが自然について学んだことや体験したことを発表し、素晴らしい評価を受けています。

「大都市にあるほたるの里」の成功例は、市外県外からは言うに及ばず、**海外からも視察が訪れます**。特に平成13年からは、韓国との相互交流が始まり、共に行き来するまでになりました。「視察にお越しになる方々をガッカリさせたくない」と、清掃活動は今まで以上に力が入るそうです。

大任町商工会青年部・女性部

“しじみ” で元気な大任町
～“しじみ” は大任町の環境保護とまちおこしのシンボルです～

大任町商工会青年部・女性部では、
「１個のしじみが、１日コップ一杯の水を浄化する」という、しじみの浄化作用に着目、毎年「しじみ祭り」を開催し、イベントを通して「彦山川をきれいに」と呼びかけています。

～今年で24回目を迎えたしじみ祭り～

会場となる河川敷が新しくなり、さらに、対岸には道の駅「おおとう桜街道」がオープン。新しいものづくしの今年は、例年より多くの親子連れで大盛況でした。

また祭りでは、環境に負荷をかけない取り組みを紹介。
段ボールを使って生ごみを堆肥にする方法や、**使い古した油で石鹸**を作って参加者に無料で配布するなど、身近でお手軽、カンタンにできる事を数多く紹介しました。

なんとテレビ取材がやって来た！

～環 境 学 習 の 取 り 組 み～

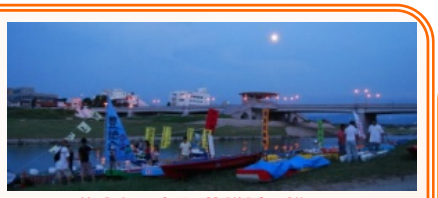
会では毎年７月、町内の小学校生向けに、総合学習の一環として川にしじみの稚貝を放流する取り組みを行っています。**「しじみの学習を通して自然と命の大切さ」**を伝える為だそうです。

さらに会では、放流するしじみを自分たちで養殖しようと試行錯誤を繰り返し、稚貝の育生にあたっています。

最後にこれからの会の活動として、「町中に花を植える活動」や、「ほたるを復活させる活動」も計画しているそうです。

遠賀川流域活動報告

◆直方市◆ 筑豊 夏の風物詩。手作りイカダで遠賀川を疾走 7月25日(日)


前夜祭の飯塚芳雄橋の様子

遠賀川に親しんで**川の環境に関心を持ってもらおう**と始められた「遠賀川川下り大会」ですが、今年でなんと第31回目。筑豊の夏のイベントとしてすっかり定着しました。少人数で始まったこのイベントですが、今年の参加者数は全42チーム 約400人、ボランティアはなんと約100名と、一大イベントに成長しました。

今年は7月25日（日）に開催され、色鮮やかに装飾された手作りのイカダが真夏の遠賀川の川面を彩りました。レースは、8時30分飯塚市の芳雄橋をスタートし、直方市の菜ノ花大橋がゴールの約22km。参加チームは、「総勢30人で漕ぎ手が交代する」チームや、「22kmを2人だけ」のチームなど戦い方は様々。

参加者はオールを漕いだ時に巻きあがる遠賀川の水を浴びたり（飲んだり？）、ゴミの多さに閉口する等、このレースを通じて遠賀川の現状を肌で感じ、河川愛護の大切さを知ったことでしょう。

※優勝は、イカダの部が「福岡トヨタ」、舟の部は「JEEP-22」でした。

詳しい記事を読む

◆飯塚市◆ 知ってましたか？飯塚防災センターでは自然体験学習も出来るんです 7月31日(土)

飯塚市防災センターは、飯塚市芳雄町嘉麻川橋近くにあり、**洪水時**には円滑かつ、効果的な**水防活動**や、**災害時の復旧活動の拠点**となりますが、このような緊急に使用される以外の時には、防災・環境学習の場として広く市民に利用されています。

さらに、特に要望があれば、センター内にある「震度体験コーナー（地震発生装置）」も利用が可能です。

7月31日に「新飯塚子ども会」（児童１６人と保護者）のみなさんが自然体験学習会を開いた際にも体験要請があり、防災センターの施設の役割や、必要性について学んだ後**「震度７の地震」**を体験しました。引き続き行われた水生生物の調査や、簡易パックテストで水質の調査も館内及び管内周辺で開催され好評を頂きました。

このように飯塚防災センターでは地域の防災に加え、身近な川の環境学習やその他様々な活動にもご利用頂けます。ご利用のご相談は、飯塚防災センター（0948-21-6102）までご連絡ください。

目の前は
遠賀川！

震度7！

詳しい記事を読む

◆田川市◆ 中元寺川に待望の水辺公園が完成！ 8月1日(日)

8月１日（日）、田川市後藤田地区で遠賀川流域では**11番目の水辺公園**となる**「中元寺川水辺公園」の落成式**が行われました。

公園が出来る前のこの場所は、草が繁茂し、不法投棄が後を絶たない荒れた場所でした。　そのため、平成１３年から地域住民により清掃作業や草刈りやなどが始まり、この場所も少しずつ生まれ変わっていきました。そんな経緯のあるこの場所が、今回新しく憩いの親水空間として生まれ変わった事は、今まで河川愛護に携わった方々の努力の結晶ともいえます。

落成式では、隣接する後藤寺中学校美術部の生徒が描いたモニュメントの除幕式のほか、中元寺川子どもの水辺協議会、田川市、国土交通省の３者で今後の維持管理の役割分担をまとめた協定書の調印式や、カヌー教室なども行われ、晴れて水辺公園の開園となりました。

カヌーも出来ます！

モニュメントは
一生の思い出に

詳しい記事を読む

◆嘉麻市◆ 「竹が川を救う」って、どういう事？ 8月1日(日)

―――源流の森再生応援団―――

日本の多くの山林では、タケノコが外国産に押されて採算が取れず、収穫されずに放置され、増殖力の強い竹が山林を侵食、**竹林化**が進み、本来あるべき山の**保水量が年々減少**しています。

この現状を危惧した「NPO法人遠賀川流域住民の会」では放置された竹林を伐採し、浄化作用があると言われている**炭を伐採した竹で作り（竹炭）、河川や町の側溝に沈め、水質の浄化効果**を検証する取り組みを始めました。

検証後には、川から引き揚げた竹炭を粉末にし、肥料として山に返すという**「循環型」のプロジェクト**を目指しています。

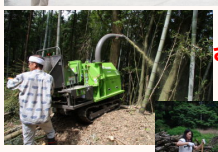
第１回目は8月1日（日）に、遠賀川の源流である嘉麻市千手地区で開催されました。当日は福岡県立嘉穂総合高等学校嘉麻市立大隈城山校の高校生の皆さん７０名と、先生８名、遠賀川流域からの一般参加者３４名の総勢112名で作業が行われ、伐採された竹を窯に入れやすい大きさに切る作業を行いました。しかし、　なかなか竹を切る作業は難しく参加者の皆さんは大苦戦。それでもなんとか予定していた**約1,000m^2**の作業を無事完了させる事が出来ました。

続く8月9日には、すべての竹を窯に詰め込む作業を実施しました。詰め込まれた竹は、8月10日から**３日３晩炉で燃やし続け**、窯を煉瓦と赤土で塞ぎ、さらに**１４日間釜に寝かした**後、ついに釜が開かれ、作業は８月２６日にようやく終了しました。

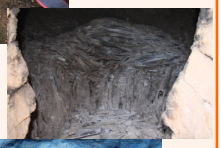
竹炭の出来栄えは、赤土の窯で初めて作業したにしては**ほぼ完ぺきな出来上がり**。その後、竹炭は大きな袋で５０袋程袋詰めにされ、今後、遠賀川流域に**設置され**、**水浄化**の検証が始まります。この事業の続報はこの「遠賀川流域だより」で随時報告する予定です。

会では今後、竹炭を使った水の浄化作業をお手伝いしていただける団体を募ります。この記事をご覧になって、興味を持たれた方は「NPO法人遠賀川流域住民の会」までご連絡ください。

連絡先は紙面の最終面を御覧ください。


さあ！作業開始

竹きりに大苦戦


窯で16日間！

これが竹炭です。

詳しい記事を読む

遠賀川流域活動報告

◆北九州市◆　水辺の楽校（がっこう）って知ってますか？　8月22日(日)

「笹尾川水辺の楽校」とは、平成13年度末より「有識者によるワーキングチーム」や「水辺の楽校推進協議会」などで設置が検討され、**河川浄化の大切さ**や子ども達が**水とふれあい親しむ自然教育の場**として活用するために、平成15年度に整備された空間です。

この水辺の楽校で８月２２日（日）、「笹尾川水辺の楽校運営協議会」が主催する「笹尾川　水辺の楽校で遊ぼう」が開かれ、地元の子供たち28人が参加しました。

当日、子ども達は3チームに分かれ、カヌー教室・ネイチャーゲーム・水生生物調査を体験しました。聞きなれない「ネイチャーゲーム」とは、自然を五感で感じ心と体で自然を体験することによって“自然への気づき”を見つけるゲームで、今回は、自然の中にたくさんの色の違いを調べる「色いくつ？」や、わらしべ長者の如く、河川敷にあるもの（昆虫や植物等）をみんなでどんどん交換し、種類を覚えながらゴールするという「わらしべウォーク」など、楽しみながら学べる試みは子供たちに大盛況でした。

続いて行われた水生生物調査では、投網を使って入った魚の種類を調べたり、生物の種類や住処を知ることで川の状態を知る調査をしました。ちなみに今回の調査では、オイカワやヤリタナゴ、カマツカ、またスジエビ、カワニナ等が見つかり、水質では、4段階（きれい、少し汚い、汚い、大変汚い）評価の上から2番目**「少し汚い水」**となりました。

今回の体験を通じて子供たちは、日頃何気なく感じていた**自然の見方や考え方**が少し変わり、ちょっぴり成長したのではないでしょうか。

ネイチャーゲーム

カヌー体験

水生生物調査

詳しい記事を読む

◆田川市◆　伊田小学校の4年生、ふるさとの川“彦山川”を調べる　9月3日(金)

彦山川は、毎年５月に「**川渡り神幸祭**」が行われる事で知られています。このお祭りのある番田河原（ばんだごうら）近くにある田川市立伊田小学校では、毎年、川渡神幸祭の前に**ゴミ箱を設置したり**、祭りの後に**ゴミ拾い**をしたりと、ふるさとの祭りや川辺を守る活動を続けています。

さらに毎年、彦山川の水質や水生生物調査も行っており、今年は９月３日（金曜日）、４年生の児童７３名が実施しました。調査場所はもちろん番田河原周辺で、川の中まで丹念に調査しました。

調査中、いつのまにか**地元のおじさん**もまじって参加。「その昔、彦山川は子どもたちの遊び場だった」「川では大きな魚をいっぱいつかまえた」等々、昭和の時代の歴史講義？もあり、生徒たちはセピア色に輝くふるさとの昔話を興味深く聞き入っていました。

ちなみに、今回の調査結果で１番多かったのはスジエビで、次いでヒル、イシマキガイ、ヤマトシジミとなりました。水質では**「少し汚い水」**と判定されました。

大好きな番田河原で調査

詳しい記事を読む

◆田川市◆　金川小学校の4年生　ふるさとの川“金辺川”を調べる　9月6日(月)

金辺川は香春町を源に発し、田川市から福智町（方城）へ流れる彦山川の支川です。この金辺川近くにある田川市立金川小学校では毎年、「金辺川調査隊」と称し４年生になる児童が金辺川の調査を行っています。

今年は９月６日に開催され、総勢５２名の児童が８班に分かれ、金辺川の水生生物調査を行いました。

今回は、講師である通称「お魚博士」が事前に金辺川の魚たちをつかまえ、即席の**「ミニ水族館」**を開設しました。日頃見ることがない、大きなライギョや、きれいな婚姻色をしているオイカワを見た児童達は、金辺川にこんな魚がいることにとても驚いていました。こんな大きな魚がいる事がわかった子供たちは、目の色を変えて水生生物の調査を行いました。子供たちには強制は不要。ちょっとした工夫で、子供たちの好奇心を刺激すれば**驚くほど自主的に**動くようになるようです。

ちなみに、調査結果ではスジエビやコガタシマトビゲラ・ヤマトシジミなどが多く捕まり、水質は**「少し汚い水」**と判定されました。

みんな積極的！

詳しい記事を読む

◆芦屋町◆　誰が捨てたの？響灘の海辺はゴミでいっぱい！　9月19日(日)

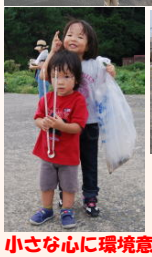
遠賀川に捨てられた大量のゴミは、**海**（響灘：芦屋・若松海岸）**まで流れ着き**、**海岸の景観を損ねる**のはもちろんのこと、**漁船のスクリューに絡んだり**、**水生生物に悪影響**を及ぼす元凶になっており、海岸のゴミ問題は深刻となっています。

この下流の状況を知った**遠賀川上流**に住む住民のみなさんが**1年に1回**集結し、**海岸を清掃**する「芦屋・若松海岸クリーンキャンペーン」が9月19日（日）開催されました。

参加者は５０団体５５０人で、各々4班（北九州市若松区岩屋海岸・夏井ケ浜海岸・洞山周辺・なみかけ大橋）に分かれ清掃を実施しました。

今年で９回目を迎えるこの行事。難しい「海岸線波打ち際の作業」もそつなくこなし、波消しブロックの間、草むらの中等普段見落としがちな場所もきれいに掃除されました。

参加者は、掃除を終え回収されるゴミの量に閉口。しかし、無邪気にゴミ拾いを手伝っていた子供達はまだこの深刻な事態をのみこめていない様子。増え続けるごみ問題の解決には子供達にしっかりとこの問題を伝え、環境意識を芽生えさせ、ゴミを捨てない心を啓発していく事が重要だと感じました。



小さな心に環境意識を芽生えさせよう

詳しい記事を読む

遠賀川の中島に”竹”の遊歩道ができる！？（国土交通省　遠賀川河川事務所の取り組み紹介）

～遠賀川の中下流部にある“中島”の現状とは～

遠賀川中下流域部（河口から11km付近）に位置する「中島（なかしま）」は、都市化が進む遠賀川中下流域において大規模なヨシ原やヤナギ林などの多様な植生や鳥類、哺乳類等の重要な生育・生息空間となっていますが、近年では外来種の侵入や乾燥化が進み、中島本来の自然が失われつつあります。

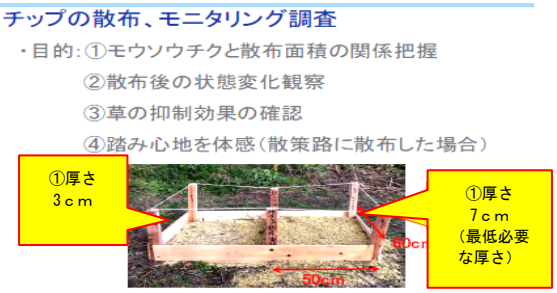
一方、遠賀川中下流域においては、氾濫原的湿地の減少、河道内における湿地の減少、及び、水際環境の単調化による生物多様性の低下、人と川との関わりの希薄化などの課題が生じています。

そこで、中島を対象として「湿地の創出」や「人と川との絆の再構築」を目指した計画（遠賀川中島自然再生計画）に基づき掘削による湿地の再生及びヨシ原の保全を行い、次世代に引き継ぐ未来の遠賀川づくりを行っています。

～“中島”に群生する竹の有効活用方とは～

遠賀川中島のワークショップは、平成19年9月2日の第1回の開催から今回で20回目を迎えました。20回目の活動では、維持管理とモニタリングに目を向けたワークショップを行いました。特に、中島に群生している竹の対策について、過去のワークショップで検討された色々な方法の一つである“竹のチップ化”を試験的に実施しました。

デモは11月9日（火）に行なわれ、中島で伐採し、枝葉の付いたままの竹を機械にかけ、「轟音と共にわずか数秒でチップに変わって行く状況」をビデオに納めました。この映像は、11月13日に開催したワークショップで報告され、議論が行われました。



～竹チップで散策路は実現するのか～

今回使用したデモ機の性能は、最大直径17．5cmまで対応可能で、チップは刃を変更する事で“荒いもの”から“粉末に近い状態のもの”まで段階的に作成が可能、尚且つ生木でも使用でき、連続運転時間は約2時間程度となっています。

今回の体験では、長さ5m、直径15cmの枝・葉付きの竹を8本使用しましたが、1本あたり処理時間は、10秒未満で10mm程度のチップに粉砕出来ました。仮に2m幅の散策路に厚み7cmで100m敷設すると、長さ5mの竹が約400本消費される事となります。

粉砕された竹は、モニタリング調査として中島内の一角に厚さ3cmと7cmに敷ならし、雑草の抑制効果の検証を行っています。（写真参照）

最後に、参加された皆さんで踏み心地を体感しましたが、非常に好評で、竹の香りが良い感じでした。

流域内のイベント等の予定

- 12月23日(木)～25日(土)　川を愛でる灯火の夕べ・河川美化PRのイルミネーション
  （点灯時間：日暮～午後10時、場所：彦山川番田河原河川敷）
- 1月　1日(元旦)　若水くみ
  （時間：午前8時～午前10時、場所：嘉麻市桑野　遠賀川源流広場、備考：竹水筒100本を無料配布）
- 2月～　各地で鮭の放流活動開始が始まります。（詳細は次号以降で）

遠賀川流域だより　皆様のご意見、ご感想をお寄せください。

発行　国土交通省遠賀川河川事務所
住所　直方市溝堀１丁目１－１
電話　（０９４９）２２－１８３０
ＦＡＸ（０９４９）２２－２８５９
ＨＰアドレス　http://www.qsr.mlit.go.jp/onga/

協力　ＮＰＯ法人遠賀川流域住民の会
電話　０９４８-２２-３５３５
http://www.ongagawa.jp/